

# 令和2年度 上田市立 城下小学校 自己評価シート

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)	
まなび きたえ ともにのびる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友の話を聞き、自分の考えを伝え合い 学びを深めようとする子</li> <li>・心と体の健康を考え、進んできたえようとする子</li> <li>・互いに支え合い、思いやりの心を 育もうとする子</li> </ul>		
	今年度の重点目標		
	1	授業のユニバーサルデザイン化による誰もが安心して学べる環境づくり	
	2	お互いが認め合い高め合える、人間関係を大事にした集団づくり	
3	ルールとマナーが定着した安心して自己表現できる集団づくり		

総合評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響もあり、グループ学習や直接会ってのコミュニケーション活動に制約があったが、授業展開を工夫したり、グループの形を工夫したりすることで、学びの場を確保することができた。お互いの考えを深め合いながら、学習する姿が見られた。</li> <li>・例年行っている「マラソンタイム」や「全校体育」などの活動はできなかったが、子どもたちは「新しい学校生活」の制限の中で、できる範囲で体を動かす姿が見られた。</li> <li>・全校集会などの交流活動はできなかったが、地域で行っている「城下あいさつ運動」や児童会のあいさつ活動、学年での呼びかけなど、個別の取り組みにより、あいさつの輪が広がり、学級、学年を越えたかかわりが生まれた。</li> </ul>					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
職員研修を通し、児童の視点に立った、授業づくり、教室環境づくりに取り組み、毎年、実践を重ねることができている。	○				今後も研修を重ね、信州型ユニバーサルデザインの視点に立った、授業改善を研究授業を通して行っていき、児童の成長に役立てていく。
朝の会や帰りの会での「いいとこ探し」やQUをもとにした個別のとらえを行い、安心して学習できる学級づくりを心がけることができた。		○			交流活動や直接かかわる活動の重要性を再確認できたこともあり、コロナ禍でも実行可能な活動の工夫をさらに進めていく。
無言で給食を食べるなど「新しい学校生活」に対応しようと取り組むことができた。授業に話し合い活動を積極的に位置づけることができた。		○			ルールを守る気持ちを大切にしながら、表現活動も充実させていく、メリハリのある活動を工夫していく必要がある。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	心の通じ合いを重視した指導の推進	協力して活動する場や互いの良さを認め合える場を設定しながら行事、学級経営、学習指導を進めることができたか。
		授業のユニバーサルデザイン化	どの子にもわかる・できる授業づくり、確かな学力が身につけていく授業づくりができたか。
		学び合いを大事にし、考えを交流する場の設定	国語の読解力、算数の思考力の向上を目指し追究の場でわからないことを聞き合いお互いの考えを伝え合う学習活動を設定しているか。
		家庭学習の充実	家庭学習の手引きを活用し、日頃の学習指導と連携させて家庭学習の習慣化がはかれたか。
		明るい挨拶や返事の励行	進んで行う挨拶や気持ちよい返事を繰り返し指導し、児童会を中心に実践することで、子ども達に広がっていったか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
手紙による交流や人数を制限した活動、ウェブによる児童総会など、コロナ禍の中でも実行可能な活動の工夫ができた。		○			総合的な学習の時間の充実により、学級、学年、全校、地域との交流を推進することにより、互いの良さを認め合う活動を工夫していく。
自然と「問い」が立ち上がる学習課題の工夫や資料、板書、学習カードの工夫をすることができた。CRTでは、全国比をほぼ上回ることができた。	○				実践的な取り組みを通して、支援の在り方が明確になってきている。さらに、わかる、できる授業づくりをめざし、授業研究を通して行っていく。
コロナウイルスの警戒レベルが高い時期は行えなかったが、レベルが低い時期には、隊形を工夫し話し合い活動をなるべく行うことができた。		○			「新しい学校生活」の中でも、活動方法を工夫し、対話的な学習の場を積極的に取り入れていく。グループ学習を増やし、学びが深まる授業を工夫していく。
家庭での学習習慣が定着してきている児童が多い。休校中は保護者の協力を得て、調理なども行った。児童の意識と比べ、保護者の評価は多少低くなっている。		○			学校の授業とリンクした内容で、保護者の協力と理解が得られやすい工夫をしていく。
昨年と比べ、あいさつに対する意識は高くなってきているが、まだまだ個人差も大きく、学校外でのあいさつまで良くなっているとはいえない。	○				児童会のあいさつ当番や、あいさつ運動など、子どもたちの主体的な取り組みで、あいさつが良くなってきているので、この意識を継続させていく。

生徒指導	生活規範意識の育成 (基本的な生活のルール の 確立)	集団生活のきまりや約束に関する日常的な指導を進めたか。(遊びの約束事の徹底、安全な廊下歩行、授業を受けるルールの指導、無言清掃の取り組みに向けた指導等)規則正しい生活習慣が身につけてきたか。	無言清掃などしっかりできていることも多いが、活動場所が限られていた時期は、エネルギーの余っているせいか、廊下歩行に課題があった。		○		児童会活動での呼びかけ等、効果がみられる活動をさらに充実させ、自治活動を充実させていく。
	いじめ・不登校を未然に防ぐ 取り組み (温かな人間関係)	自他の良さを認める場の設定や日常的な人権同和教育、自己有能感を高める教育活動を行うことができたか。 子ども達の様子に目を配り、友達関係や実態をつかみきめ細やかな保護者との連絡を心がけることができたか。	相談旬間やQUなど活用し、普段の姿からだけではわからない児童の様子について知ることができていた。		○		相談旬間、QU研修等、継続して行う。毎週行っている児童理解の時間を大切に、状況によっては、関係各所と連携を図り対応する。
学校運営	学社融合 地域の方々との交流	地域の方々と連携して、地域のものや人と関わる活動や交流ができたか。	例年と比べ、クラブ活動やマル付けボランティア、外部講師の授業など、地域の方との交流の場が大きく減ってしまった。			○	コロナ禍での交流の在り方を工夫していく。コミュニティスクールをはじめ、多くの方が、本校を支えてくださる体制があるので、積極的に連携し、取り組んでいく。
	保護者との連携	参観、行事、懇談、環境整備等、保護者の方々の理解や協力を得ながら教育活動を展開しているか。	様々な行事の中止や縮小を余儀なくされたが、保護者の皆様には、その都度、協力をいただき行うことができた。PTA活動も縮小する中、できることをできる範囲でやっていただき、大きな支えになった。		○		PTAの協力を得て、連携をさらに深めていく。学級懇談会だけでなく、多くのPTA行事等で連携し、意見や要望を聞きながら連携を図る。
	学校からの情報発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。	学級通信、学年通信、学校だより、ホームページなどで、情報発信を行ってきたが、まだまだ十分といえない。			○	ホームページなどで保護者が手軽に情報を確認できるように、掲載内容の工夫をする。
	研修	授業づくり研修	国語・算数・道徳・人権教育等の一人一公開授業を通して、自らの課題に向けて授業改善を進められたか。	研修の時間を確保し、実践的な研究を進めることができた。一人一公開を行い、子どもの困り感に焦点をあてた授業改善ができた。	○		

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった